

吃音のある方が“生きやすくなる”ための 発語指導

● 基本スタンス ●

- 『吃音は、本質的に治るのか？』との哲学的命題は、学問的には重要な課題でしょう。しかし、今、目の前にいる相談者にとっての命題は、“生きやすさ”だと考えてみませんか。
- “楽な発語での言語活動の経験”は、吃音で悩む方にとっては、“生きやすさ”を支える土台となり得る。

● 発語指導に対する基本スタンス ●

- 流暢性の形成に於いては、音読にしろプレゼンにしろ、そこに現れる吃り方に一喜一憂するのは止めましょう！ 『発語指導』の本質は、そこにはないのですから！
実は、「どのような吃り方や随伴症状があるか？」は、それ程大きな問題ではないのです。臨床上大切なのは、「どのように楽な声で発語することがあるか？」を把握することなのです。
- 従って、“共調発語指導法”では、それぞれの個人が『どのように楽に声を出しているか』の把握に最大の注意と関心を向け、吃音検査や会話での発語の様子を注意深く観察します。
- 小学生の場合、学校での音読が、今までよりほんの少しでも楽にできると、それだけでも物凄い自信になり、そのことがさらに楽な発語での音読を誘発するという循環を生み、そのことを契機に、学級での自発的な発言が多くなっていく子もいます。
ですから、吃音のある子に対する主な指導方針の一つに『音読指導』を位置づけ実行することは、豊かな学校生活をもたらす大切な指導と考えています。

“共調発語指導”の基本理念

共調発語指導で目標とする発語の状態は、音読であれフリートークやプレゼンなどの発話であれ、“楽な発声”から得られる“楽な発語”です。

例えば、強いブロックで奇異な随伴動作の伴う吃症状が認められる場合であっても、「さかな」を発語するとき、語頭の「サ」に出現した吃症状が、「力」にも「ナ」にも出現することはとても稀です。また、語頭に出現しないで、「力」や「ナ」に出現することも、とても稀です。

特に、小・中学生の場合、語頭や文頭、つまり、「サ」に吃症状が出現したとしても、次の「カ」や「ナ」の発語は、喉の力みの無い楽な発語になっていることの方が多く観察されます。

ですから、共調発語指導では、発語指導上、

「非流暢性の状態」よりも『楽な発語の状態』の把握

つまり、「どのように吃っているか」ではなく、

「どのように吃っていないか」を把握することが、

共調発語指導の基本

をポイントに発語を観察します。

そして、その『楽な発語の状態』を維持した状態で、対象者【幼児から成人】に応じた素材や課題、環境設定を行い『共調発語指導法』を適用します。

指導の終了は、基本的に「いつでもどこでも吃らない＝０ゼロを目指す」ものではありません。

今が“生きやすくなる”ことを当面の指導課題として、指導を始めます。

下記の図は、『共調発語指導の基本原理や基本的な指導方法』をまとめたものです。

共 調 発 語 指 導

◎ 吃音の本質的な問題の一つである『非流暢性（吃症状）』
に対する直接的な指導

○ 共調発語指導は、指導者が、話し手や読み手の「楽な発語の状態」を把握しながら、話し手や読み手に「楽な発語」が生起するように、指導者の発語をコントロールすることにより、楽な発語を促すことで、非流暢性（吃症状）を抑制していこうとするものです

○ 指導者の発語をコントロールすることで得られた『即効性のある一時的な効果』を『持続可能な効果』へ変換していくプロセス（指導）を『共調発語指導』といいます

共調発語指導の基本的な指導方法 method

共調復唱法

【主に、構音指導時に適用】

共調同時発語法

共調同時発話法

共調同時音読法

共調遅延発語法

【H-DAFの適用】

共調遅延発話法

共調遅延音読法

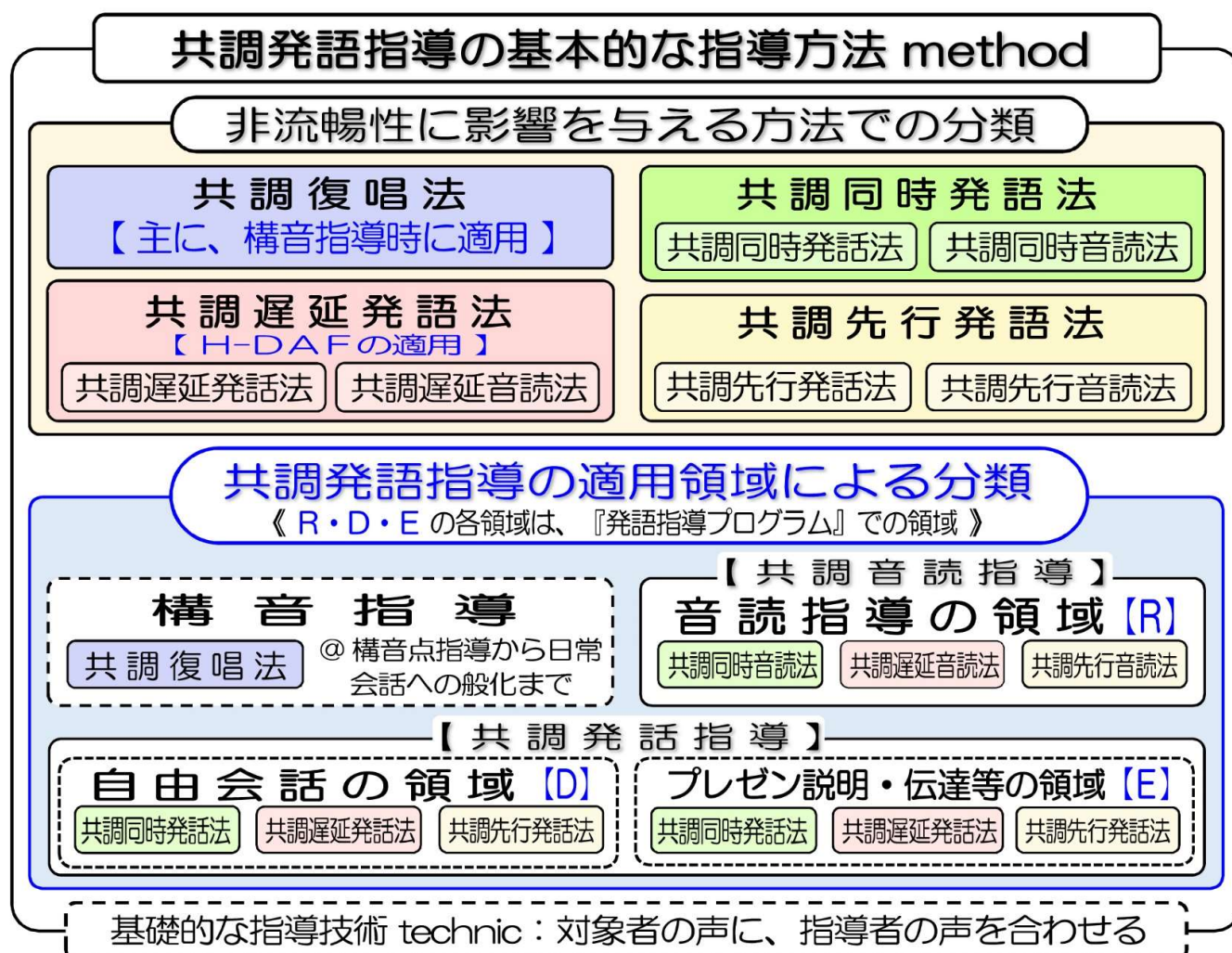
共調先行発語法

共調先行発話法

共調先行音読法

基礎的な指導技術 technic = 対象者の声に、指導者の声を合わせる

次頁の図は、『共調発語指導の基本的な指導方法』について「非流暢性に影響を与える方法での分類」及び「共調発語指導の適用領域による分類」から、まとめたものです。



実際の指導での『共調発語指導の基本』は、以下の2点です。

- ① 『音読指導の視点になる**楽な発語**での音読』になっている“単語や句”を**即座に聞き分け、把握**することができる【2022<<前期>>講座の再確認】
- ② 把握した『楽な発語』が持続するように、**指導対象者の声に**『指導者自身の声を合わせる』ことができる

ですから、共調発語指導では、『側音化構音に対する指導で、構音時の“顎の偏位や舌の膨らみ”等々に対する指導を行わない方が、楽しく効果的に指導ができる』のと同様に“どのような非流暢性か、どのような随伴動作が生起するのか”に特段の関心を持つ必要はありません。

また、『**楽な発語**』がテーマですから、“**腹式呼吸**”や“**口呼吸・鼻呼吸**”などの呼吸の**仕方**を練習することは**ありません**。

※ 『共調音読指導』の参考に、下記の指導動画を**YouTube**や**相談室HP**でご覧の上ご参加下さい。

St21 共調音読指導の紹介：小学3年生由加さんの場合【本編】

St23 共調発語指導の紹介：小学5年生茂君の場合【本編】



2020版 発語指導プログラムの全体像

(矢印の方向は、大まかな指導の順序)

